

ThorensTD124 の活用(3)

—TELEFUNKEN L61—

1. 始めに

前報(2)に引き続き、TELEFUNKEN L61 のシステムで聴いていきます。

2. ThorensTD124 の試聴方法

ThorensTD124 と Garrad401 の再生は、前報(1)のとおりです。

TELEFUNKEN L61 の駆動アンプの IPC AM1029 には TruPhase から ExProSV-1 経由で入力します。



TELEFUNKEN L61

ThorensTD124 の音源は下記とします。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・シオルティ指揮ウイーンフィル

Garrad401 の音源は下記とします。

ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020

J.S.Bach チェンバロ協奏曲
トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート
キングレコード SKA-104
愛と自然の歌
倍賞千恵子

2. ThorensTD124 の試聴結果

ThorensTD124 の Sonatas & Partitas は、肌理細かく透明感と抜けの良い Milstein のヴァイオリンが聴けます。

ワルキューレは、シングルアンプの駆動力やスピーカーのサイズの関係からスケール感は望めませんが、こぢんまりとまとまったワーグナーです。

Garrad401 のチェンバロ協奏曲は、古楽アンサンブルらしく、明晰で各パートの音の肌理の細かさも十分に聴きとれます。

倍賞千恵子は、明るく伸びやかで細かい表現も聴きとれるボーカルです。

4. まとめ

ThorensTD124 は、プレイヤー、トランス、真空管式のフォノイコなどの効果に加えて、これまでの Ex-Pro SV-1 や Rogers CadetIII に対する対策が効果を発揮し、肌理の細かいまとまった音がしていますが、スケール感は届かないところがあります。

Garrad401 は、ZANDEN Model120 の効果で、シングルアンプ駆動ながら、明晰で肌理の細かさもでています。

以上